

## 平成 23 年度長野県社会教育委員会議 議事概要

日 時：平成 23 年 6 月 3 日（金）

午後 1 時 30 分～午後 4 時 15 分

場 所：県庁 特別会議室

○出席委員 小笠原憲子委員、小出勉委員、塩澤美登里委員、鈴木道郎委員、  
中島秀吉委員、南沢好恵委員、師岡京子委員、谷塚光典委員

○欠席委員 武田登委員

○県の出席委員

教育委員会

文化財・生涯学習課

生涯学習推進センター

教学指導課 心の支援室

スポーツ課

次世代サポート課

山口利幸教育長

駒村明美課長、中村明企画幹兼課長補佐兼総務係長、  
北島隆英課長補佐兼生涯学習係長、山崎千速担当係長、  
近藤貴美枝主査、島田千恵主事、  
浦野栄一主任指導主事、蟹澤友司指導主事、  
小松容指導主事

青樹令一所長

中村和利人権支援係長

馬場英晃指導主事

北村桂一体育スポーツ振興係長

和田良一青少年指導主事

1 教育長あいさつ

2 社会教育委員の職務等について

3 自己紹介

【小笠原憲子委員：NPO法人ながの子ども城いきいきプロジェクト】

NPO法人ながの子ども城いきいきプロジェクトは、長野市にありますもんぜんプラザに「子ども広場じゃんけんぼん」という市の施設がありますが、その指定管理を市から受けて、子育て・子育て支援を中心に活動しているNPO法人です。ながの子ども城は、いきいきとした子ども達の世界を守るため、事業を8つのプロジェクトで実施しています。

日頃、子育て支援で保護者の皆さんと接していて感じることは、家庭教育力の低下と  
いろいろ言われていますが、実態は、生活や子育てに関する術等が保護者に伝えられて  
いない、教育されていないということを感じます。そのため、悩みとか子どもにとって

も色々な課題が出てきます。私たちはそんな保護者の皆さんにいろいろなことを伝えていこうとやっています。そうすると「そうだったんだ」と保護者の方が変わっていきます。また、ただ支援するだけでなく、当事者同志自信を持って育ち合いをサポートしあう関係づくりをしていこうという願いを持って活動をしています。

**【小出勉委員：長野県社会教育委員連絡協議会長】**

長野県社会教育委員連絡協議会の会長をやっております。私はこの会が長野県の社会教育の中で非常に大切な会議であると常々思っております。長野県の社会教育というものをどう考えていくかについて、話し合いを通じて考えていきたいと思っています。

**【塩澤美登里委員：長野県連合婦人会常務理事】**

飯田から出て参りました。長野は遠いです。

婦人会はそもそも社会教育団体であり、今では公民館を借りるのも他の団体との兼ね合いもあり、難しいこともあります。公民館を拠点に活動した流れが元になっていません。私は飯田で昭和43年頃からずっと婦人会に関わらせていただいています。

子どもは地域で育てるんだということについて、私どもが子育てをした頃は、子育ては自分でやるんだと勤めなくてずっと家におりました。しかし、今は男女共同参画で皆さんお勤めに出ておりますので、その留守の間のお子さんをどうやって育てていくのかということが、婦人会の家庭教育研究会でも大切な課題となっています。

現在、地域に一校ある学校では、地域の皆さんがどんどん「こうやらせてください」「手伝わせてください」と言えます。しかし、飯田市の中でも3地区とかで一校になると、1つの地区の住民が学校へ言って行くのに遠慮があります。その分学校が終わった後、子ども達との関わりをどう持っていこうかと、交通安全の見守りをやったり、放課後子ども教室に率先して関わったりしています。

本日皆さんのところへお配りしたパンフレットの「我が家の結いタイム」とキャリア教育を今飯田市で盛んにやっております。子ども達が地域の企業なり地域の職場で、大人の人たちと触れ合うことは、学校だけでは学べないことを沢山学ぶ機会となっています。また、小中一貫教育の話も出ておりますので、婦人会もそれに関わっていけたらと思っています。

**【鈴木道郎委員：信州伊那谷キャンパーズヴィレッジ代表】**

長野県の飯田の近く、上伊那の中川村で、キャンパーズヴィレッジというキャンプ場を運営しています。名古屋から来て18年目になります。名古屋出身で、東京で4年ほど私立の幼稚園に勤めて、教員をやっていました。しかし、どうしても外で子ども達に関わりたくて、教員なら夏休みは長いと思ったのですが、夏休みはほとんど無かったので、自分でやってしまうしかないということになりました。本当は山村留学をやりたかったのですが、いろいろ考えた末、自分はキャンプがいろいろのベースになっていたので、キャンプ場をつくってそこに来た家族なり子ども達なりとかかわって教育したいな

あとということで、キャンプ場をつくり、10年ほど前からキャンパスヴィレッジ自然学校という全く民間の団体を立ち上げました。また、文科省の居場所づくりを請け負わせていただいて、その事業を通じて中川村の青少年健全育成協議会に関わっています。

昨年9月の長野県社会教育研究大会で発表させていただきましたが、小学一年生から中学生までを自転車に乗せています。自転車といっても、普通の自転車ではなくてスポーツとしての自転車です。飯田ではプロの地域密着型のチームがありますが、そのチームとの関わりもあります。ただ自転車に乗って走り回るのではなくて、競技として、きちんとコースを走り、スポーツとして取り組むことにしています。1年間いろいろな練習をして、1年間の最後には、小学校1年生からみんなで自分たちの生活の源である天竜川をずうっと下って、中川村から海まで約200キロあるのですが、そこを走り切ります。それをどうやって連れて行くかということが、私たちのやっているまさしく社会教育となります。もちろん技術的なことは当然なんですけど、マナーであるとか交通ルール、体力的なこととか、結果的にはそのすべてが養われるものになっていると思っています。自分たちがそういう子ども達を育てるのはもちろんですが、もう一つの目的として大人達にどうやって関わってもらおうかということがあります。子どもだけでは行けませんので当然大人達の支援が必要となります。今年はたまたま震災があったので、海へは行けず、諏訪湖に行きました。諏訪湖でも中川村から来て、ぐるっと回ると80キロほどあります。小学校1年生から全員完走させました。それは大人のサポートが無くてはできません。その大人は誰かというと専門家ではありません。保護者であったり、地域の方だったりするのです。そういう方達も子ども達と一緒に活動することで、子ども達もやる気が出ますし、大人達も自分の楽しみとして、活動をやっていたら良いと考えています。大体の方は保護者の方が多いのですが、自分の子どもは大きくなって卒業したけれども、地域の子どもの関わっていきいたいという方とも活動をしています。

それ以外にも放課後子ども教室もやらせていただいています。こうした活動を通して「地域の大人が地域の子どもの達を育てよう」ということを目標に自然学校をやっています。

#### 【中島秀吉委員：長野市立保科小学校長】

私の勤務している小学校は長野市東部に位置し、標高が432メートルあります。長野市街地を見下ろせる風光明媚なところにあります。全校児童150名という学校で、人権同和教育を大事にしながら毎日明るく楽しい学校生活ができる様にやっております。今日の午前中は5年生の田植えがありました。一緒に子ども達と田植えをしてちょっと泥臭いのですが、この会に参加させていただきました。今年4月16日に本校の体育館竣工式がおこなわれました。学校関係者と共に大勢の地域の皆様が来てくださいました。

「おらほの保科の体育館ができた」ということで、お年寄りから地域の沢山の皆さんが完成を祝ってくださいました。児童の学習の場はもちろんですが、社会体育、地域の活動、また、地震とか大雨の時の自然災害の時には保科地区の避難場所として有効に活用

できる体育館として保証されるということを皆様と確認しあったり、体育館の竣工を祝ったりしました。今日の意見交換会では「学校、家庭、地域が連携協力した開かれた学校づくり」について話し合われます。取り組みとしては、学校の子どものための地域素材の活用、地域の人材の活用を進めた地域に根ざした学校。また、学校を知ってもらう、学校を開くことで地域の人や物を活用させていただく開かれた学校ととらえています。更に、今は特色ある学校づくりとして保護者や地域の皆様にお聞きすること、行政の皆様に参加を求め、それから、安全についての展開をすることなどが学校に求められていると考えなければと思っています。本日は学校現場の一員として保護者・地域と共につくる学校はどうあったらよいか学ばせていただきたいと思います。

#### 【南沢好恵委員：長野県PTA連合会理事】

私は千曲市に住んでおります。私が所属しているのは長野県PTA連合会の理事ということですが、たまたま自分の子どもが通っている学校の役員をということで、「子供がお世話になっているのでお引き受けいたします。」ということで受けた役員が、地区のPTAだったり、県のPTA連合会だったりの役がついてきてしまったということです。そこで、なぜここにいるのか、お隣の方にも「ここに座っているということはただ者でない主婦なんですよ」と言われたのですが、普通の主婦です。

すみませんが、社会教育委員という言葉も、確か去年役員をやらせていただいた時に指導者研修会にいらした講演者の方の肩書きが社会教育委員という方で、初めてお聞きしましたという感じでした。本当にそんな感じで皆様の自己紹介をお聞きしていて、子ども達がこれだけ学校と地域の方々に支えられているのが分かりました。また、それ以外のところでこうして送っていただいた資料や皆さんのお話をお聞きすると沢山の方に守られて、育てられているんだなあということを実感しました。私自身は自分の子どもが子育て中なので、何もしていません。とりあえず子ども達には沢山の経験をしてほしいというのは常日頃思っています。なかなか個人ですとか自分の家族だけではできないことが多いと思います。だから社会教育委員なんですねとも思います。自分が勉強させていただくつもりでおりますので、よろしく願います。

#### 【師岡京子委員：須坂市社会教育委員・生涯学習推進員】

須坂市社会教育委員並びに生涯学習推進員をしております。今回はご活躍されている皆さんの中で私の様な浅学非才なものが関わらせていただいて勉強させてもらうということが、申し訳ないと恐縮しています。2年間の任期の中で、いろいろな形で情報交換ができたかと思っております。

須坂市は、平成10年に生涯学習推進委員という制度ができました。そこで私は第1期生として学ばせていただきました。学ばせていただくだけではいけないということに気づかされて、その後に社会教育委員という役を仰せつかり、何か地域に持って帰って生かしたいと気づかされました。平成14年に私の住んでいる井上町で自主活動「井上仲良し会お手々つないで」を私ともう一人の推進委員の方と立ち上げました。しかし、な

かなか思う様な活動はできませんでした。それに負けてはいけなないと私ができる範囲で、やるだけやってみようと思い組みました。それにより、皆さんだんだん振り返ってくださり、今に至っています。その中で子ども達に何を一番残して繋いでいきたいか伝えていきたいかが一番のねらいでした。そこで、歴史・郷土食・文化の三つを選んで活動を始めました。活動の中で子ども達と三世代が仲良く活動に関わることができました。春は里山、史跡巡り、夏場はお焼きづくり、冬はしめ縄づくり等を行っています。

また、今年の1月から3月には3回シリーズで歴史講座を設けました。しかし、地域の歴史とは意味深いものがあり、昔を思い出したくないからやってほしくないとか、反対に是非やってほしいとかありましたが、20名程の参加者がありました。少人数でしたが、本当にやって良かったということで感謝をいただきました。その中で感じるのは、地域の中に技ですとか知恵を持っていらっしゃる方が沢山いらっしゃる。そういう方の力をお借りしながら今後がんばらせていただきたいと思います。その中でも、一番成果を上げたのは、今昔マップづくりでした。これも子ども達に伝えたい一心で、私は農家で、冬場しか体があいていませんので、その何ヶ月かの間に、一生懸命手作りをしました。たまたま当時の区役員さんが認めてくださって、公民館に大きな立て看板を設置してくださいました。それが信毎にも載せていただいて、私もすごくやる気が出てきたり、皆さんも地域にこんないい場所があったんだとか、初めて知ったとかいろいろ気づいていただいたりして本当に作って良かったと思っています。今後できる時に出来る事をモットーにがんばりたいと思っています。

#### 【谷塚光典委員：信州大学教育学部准教授】

信州大学教育学部の谷塚でございます。普段は教師を目指す学生の実習をサポートする様な仕事をしております。実習と言いましても、学校で行われる教育実習ばかりではなくて、地域における教育施設、県でいいますと阿南少年自然の家等と連携しながら地域の方、学生さん、子どもさんあるいは保護者の方と接することを通して教師として成長していくということを研究し、教育活動をしているところです。社会教育についてはまだまだ勉強中の身ですが、今日はどうぞよろしく願いいたします。

### 3 議長選出

#### 【谷塚議長】

それでは議長を務めさせていただきます。先ほどの自己紹介でもございましたが、委員の皆様すでに社会教育で活躍の方ばかりですので、先ほどの小出委員のご挨拶にもありましたが、委員の皆様様の活動の様子を披露していただくことにとどまらず、長野県社会教育の発展に向けて何が必要なのか、施策立案に反映できる様なご意見、ご提案を出していただければと思います。

本日の会議は大きく二つの内容に分かれます。前半は、県の社会教育関係事業あるいは社会教育振興事業の補助金についての説明と質疑応答で、後半は、社会教育の推進についての意見交換となります。本日の会議は4時終了をめどとしますのでよろしく願いいた

します。

#### 4 議事

- (1) 長野県生涯学習審議会答申について
- (2) 平成23年度社会教育関係事業の概要について

**【谷塚議長】**

長野県生涯学習審議会答申と平成23年度社会教育関係事業の概要について、担当課から説明をお願いしたい。

**【駒村課長】** 文化財・生涯学習課

**【谷塚議長】**

個別の事業についてご質問があるかと思いますが、この後生涯学習推進センター、スポーツ課、教学指導課心の支援室より説明をいただいた後まとめて質疑及び意見交換とさせていただきます。

**【青樹所長】** 生涯学習推進センター

**【北村係長】** スポーツ課

**【中村係長】** 教学指導課心の支援室

**【谷塚議長】**

今年度の社会教育関係の事業のご説明がありました。ただいまの説明に関して、ご質問がありましたら出してください。

**【師岡委員】**

須坂市で昨年度事業仕分けをしました。その中に放課後子どもプランがありました。須坂市としては児童クラブ、放課後子どもプランは共有制があるものだとということで最終的には放課後プランが無くなってしまった訳なんですけれど、他の市町村ではそうした問題はないのでしょうか。

**【事務局】**

放課後子どもプランについては、須坂市で事業仕分けの対象になったとお聞きしていますが、県では引き続き補助事業として実施をしております。実施市町村は増加しております、いまのところ須坂市以外の市町村で廃止というところは聞いていません。

**【谷塚議長】**

今の発言に関わって、長野市は中核市なのでここに入っていないということですが、長野市で独自に統計を集めていて全くやっていないということではありませんよね。

**【事務局】**

長野市は、放課後子どもプランについては盛んにやっております。すべての学校でできるよというこを目標に取り組んでいらっしやいます。

**【谷塚議長】**

中島委員さん、そのあたり、聞いていらっしやいますでしょうか。

**【中島委員】**

はい、長野市は放課後子どもプランを進めるということで取り組んでくださっています。今年度は時間も延長するということで現在進めているとお聞きしています。

**【鈴木委員】**

中川村でも両方やっております。全く質の違うものだと考えて、取り組んでいます。いい例が児童クラブの担当していただいている先生ですね。放課後子ども教室は中川村では週1回水曜日だけなんです、それが大切だということで、児童クラブの先生のお子さんはその日だけ、放課後子ども教室に参加させている方もいます。それぞれ質が違うものだと捉えています。

**【師岡委員】**

目的は違うと思うのですが、グループが違って論議の詳細はわからなかったのですが、結果的には廃止になってしまいました。

**【谷塚議長】**

これに関わっての話ばかりになってしまいますが、先ほど、生涯学習推進センターの講座案内の資料説明がありましたが、特にこの放課後子どもプランに関してはリーダー養成やそれに関わっての研修などは計画されていないのでしょうか。センターとしてではなく、各教育事務所の中で意見交換会という形では行っているようすが。

**【事務局】**

「放課後子ども教室」は、たまたま今年度はセンターの講座の中には入っていませんが、県の独自の事業として、指導者養成講座や研修を行う予定です。教育事務所単位でも担当者が集まって研修をする計画がありますので、広く皆さんにお知らせしていきたいと思ひます。

**【谷塚議長】**

昨年度、関東甲信越静の大会が東京であった時に、私は杉並第一小学校の事例発表のコメントーターを担当しました。学校で独自にやることと合わせて、研修会でこういうことをやっていることを地域に発信することや、杉並第一の関係者だけでなく他の地区の関係者も、そういう事例があったんだと事例を知るだけでもとても良い機会になると感じました。

意見交換会、各地区ごとになりますが、広く広報していただいてそういう情報をお互いに交換できる様になればいいと思います。

【谷塚議長】

他にないようですので、それでは、また意見交換の中で事業に関係したこと出していただければと思います。

県の施策に関しましては、今日の生涯学習は文化財・生涯学習課だけでなく、センター、スポーツ課あるいは教学指導課など多くが関係してきますので、連絡を取りながら、全体として社会教育が推進できる様に事業を進めていっていただければと思います。

### (3) 平成23年度社会教育振興事業補助金について

【谷塚議長】

平成23年度社会教育振興事業補助金について、事務局から説明をお願いしたい。

【事務局】

補助金説明

【谷塚議長】

ただ今の説明に対してご質問・ご意見があったら出していただきたいと思います。

特にご意見がない様でしたら平成23年度社会教育振興事業補助金については、原案どおりとさせていただきますと思います。

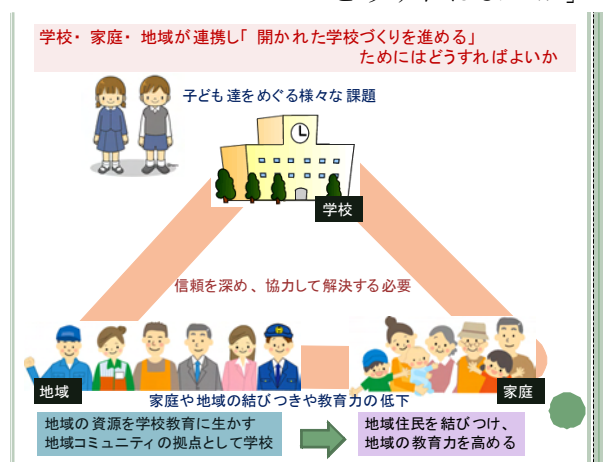
## 5 意見交換 社会教育の推進について

「学校・家庭・地域が連携し「開かれた学校づくりを進める」ためには  
どうすればよいか」

【事務局】 テーマ説明 1:34:55

【谷塚議長】

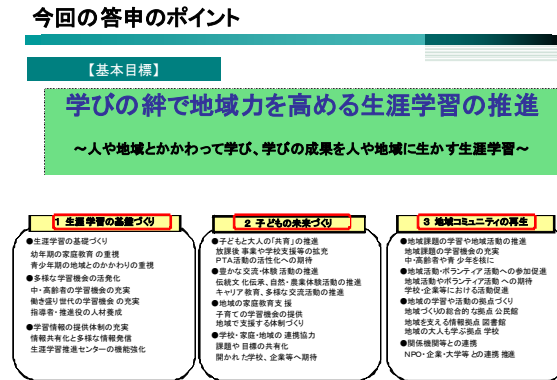
私から付け加えたいのですが、この生涯学習審議会の答申の概要を見ていただく





と、今日の説明でこの答申の柱として3つあるという話がありましたが、3本の柱があります。この中で一番右側にあります「地域コミュニティの再生」の中で3つ目に地域の学習や活動の拠点作りが入っています。地域の大人も学ぶ拠点学校とあります。学ぶと

いうより地域の大人も一緒に活動していく拠点として学校がある。その学校に関しては2番目にある「子どもの未来づくり」の4点目にあります。学校・家庭・地域の協力連携、課題や目標の共有化及び開かれた学校企業等への期待と書かれています。今日は、学校・家庭・地域の連携に関することですので、この2番目かなと思いつつ、実際のところは3番のようにも思います。つまり、地域コミュニティとして学校がどう位置付いているか。それには学校だけ



ではなく、そこにどう地域の人、あるいは地域のもの、素材をどう関わらせていけばいいのかということをお話し合っていけたらよいのかと考えております。

**【師岡委員】**

今は学校で抱えることが多過ぎる多いと思います、いじめですとか不登校ですとか。学校だけで対応できないことは、やはり地域の皆さんの力を借りていくことが大切かと思えます。社会教育でいろいろ学ばせていただいているのですが、昔はお年寄りがいて家庭内でできたことが、今は核家族化、少子化、価値観の違いとかで、家庭や学校でできたことが今はできない。やはりそこで地域の力が本当に大きいと私は考えています。私もいろいろ支援活動をして、思うことは子ども達もそういう場を求めている。大人達も、昔は70歳というとお年寄りに見えました。今は70歳とか80歳とかでも本当に若いのです。昔得た知恵ですとか技とですとか、本当にどこかに生かしたい。そういう思いを持っていらっしゃる方が大勢いらっしゃる。だからその技や知恵を子ども達に伝えることによって、子ども達もいろいろな面で生きがいを持つ。また、大人の方も同様に双方で生きがいを持つことになると思えます。地域の力は大きいと思っていますので皆さんもがんばって頂きたいと思っています。

**【谷塚議長】**

地域の力を出すことで、具体的例で先ほど、「井上仲良し会の話」が出ましたが、何かそういう具体例で、須坂市でこういうことをしたら良かったですとか、その活動の中でこういうことがうまくいかなかったとか、壁になってぶつかっていたがこうしたら解決したとかそういうものがあれば具体的に良くなるかと思えますが、どうでしょうか。

**【師岡委員】**

その活動の中で、いろいろなイベントをしました。絵手紙をやってみましょうかとやってみたところ、すごい反響がありまして、すぐやってほしいという要望がありました。それは、今続けて8年目になります。その際も小学生を招いてやりました。しかし、年を重ねている内に勉強の方が忙しくなり、参加者が減少してしまっただけですが、参加してくれた時にどんなことやりたいかということ子ども達に聞く中で、私たちも子ども達が望んでいることを地域で考えて取り上げていけたらいいなあと、子ども達の意見を大切に思っています。

また、里山歩きは、地域というのは本当にいろいろな場を持っています。楽しみでやっています。最初始めた時は、親御さんも一緒に参加してくださいということでしたが、里山歩きにかかわらず、親御さんは行事になかなか参加してくれません。そんな雰囲気がある気がします。やはり地域に馴染むには親が積極的に行事に参加することが一番だと思います。そうした大人達の元気な姿が子ども達の元気にもなると思うので、もう少し親御さんも積極的に地域の行事に参加してもらえたらいいと考えます。そこからつながりが生まれ、地域の顔見知りになることが、犯罪の防止にもなりますし、いいことだと思います。

また、須坂市としては、地域と学校が連携した活動の代表的なものとして「信州すずか農業小学校」があります。指導者は校長先生はじめすべて農家の方々と、行政側はサポート役にまわり、須坂園芸高校、信州大学の学生さんにもお手伝いを頂いております。

生徒さんの数は市内一円ということもあり、毎年50名程ですが、多い年は60名を超えた年もあり人気のある活動として注目されています。4月の入学式から翌年の2月の卒業式まで18回の作業の中で、農具の使い方、種まき、収穫等、子ども達にとっては楽しいことが多い中、その間の管理（手入れ）は農家先生23名で行うという事なので、この点については少々大変さがあるようです。現在は食育活動にも力を入れ収穫した大豆から親御さんと共に味噌づくりをしたり、又野菜やもち米を市民の皆さんに販売するなど、楽しい事がたくさんある中で子ども達の生きる力に繋がっているようです。

#### 【塩澤委員】

子ども教室に関わっているんですが、公民館長さんとか街づくりの委員長さんとかが計画たててやっているとところへ、地域のおばさん達が入ることはいいことだなあと自分では思っています。お手玉づくりをやったり、お花を教えたりしています。

また、飯田市は人形劇の町ですので、人形劇の上演をしています。子ども達が脚本を書いて、自分たちで人形を作って、発表するというのはとても子ども達も楽しみでやっています。飯田市で8月行われる人形劇フェスティバルでは、婦人会では無料の休憩所「サロン」を運営しています。そこで、自分たちの得意な漬物とか、特に梅漬け等をお出しして、全国から見える方との交流会とかをするのですが、そこへ中学生のボランティアにも入っていただいています。おばさん達のやっているのを見て、おもてなしの心、どうやったらもてなすかというのを学んでいます。普段家では家事の手伝等の時間はないし、そんな機会をお母さんも与えてくれないような、今の生活だと思えます。それで、ボランティアに入って、ああしてこうしてと言いながら、他の方と話をすること

とがすごく勉強になる。そこにはゴミの分別などのことも入ってきます。

それから、今年は4月に終わりました「山びこマーチ」の時には、チェックポイントの接待とかも行います。PTAの5kmコースでは、市内の親子がおにぎりを持って参加します。婦人会のおばちゃん達が接待するところでは、「元気に行ってきてね」という言葉を発しながらやっています。やはり地域の子ども達、広い範囲なんですけれど、親子の会話もできるし、おばさん達との話もできるし、そんなことをやっています。

地域では交通見廻りをしています。登下校の時に「行ってらっしゃい」「お帰りなさい」「今日はどうだった」という話をしながら、交通当番を地域ぐるみで団体に交代に毎日やっています。PTAのお母さん達に毎日交通当番を頼むのはお仕事を持っているし、休まなくてはならない、小さいお子さんの送り迎えがあるなどいろいろなことがあり大変です。地域の皆さんが出て、犬の散歩は是非その登下校の時にするように、地域の皆さんと声を合わせてやっておりますけれど、関わっていると子どもさん達は出てくるんですよ。子ども達のことについて関わることで、私達も生きがいを感じています。

**【谷塚議長】**

今お話がいろいろ出てきましたが、今日のテーマは「学校・家庭・地域が連携」とありますが、学校の姿があまり見えてこなかったのですが、飯田市や須坂市では学校はどう関わってきていますか。

**【塩澤委員】**

小学校で子ども会というのがありまして、そこへ先生方、地域の団体の方が行って話し合いをしながら子ども達をどう地域で見守っていくか、地域でどう育てるかということをやっています。

**【谷塚議長】**

人形劇とか「やまびこマーチ」とかでは特には学校は関わってきてはいないということになりますか。

**【塩澤委員】**

いえ、子ども達がボランティアできてくれますので、先生方もその様子を見に来てくれています。

**【谷塚議長】**

須坂でも飯田でも良いところは見えたんですけども、こういうことは改善してほしいというところはございませんか。

**【塩澤委員】**

学校も今は自由に参観もできますし、講演会があるからと地域全体に呼びかけがあります。研修会も行きますし、講演会も聞きに行きます。学校の行事に参加していますけれど、今PTAのお母さん達、保護者の皆さんが忙しいというのが一番で、そうしたところを地域でフォローできる方法があれば一番いいのかなと思います。

**【谷塚議長】**

保護者が忙しいから参加できないということでしょうか。

**【塩澤委員】**

なかなかお仕事の都合があったり、今の時代、景気が低迷していると会社から休みをもらうのが難しいみたいで、子どものことは参加しなくてはいけないけど、しょうがないかという部分が見えます。

**【谷塚議長】**

参加できなくても、その間地域で支えればよいということになるのでしょうか。

**【塩澤委員】**

そうですね。休日の資源回収とかも、PTAの皆さんだけではできないので、地域の手の空いているお年寄りが出て、荷物を運んだり積み上げたり、おろしたり、手伝っています。なかなかPTAの皆さんはそれを言えないのです。自分たちで何とかやろうと思っているのか、余裕が無くて、やってるようにみえます。

**【谷塚議長】**

南沢委員さん、PTAの立場から今の話を聞いていかがでしょう。

**【南沢委員】**

PTA代表としては何かちょっと申し訳ないかなあと感じています。ただ、皆さん忙しいのは事実で、結局私のように役をやるのはお勤めをしていない人にまわってくるということがあります。小学校高学年になるとお勤めをしていないというのはクラスに数人なんです。そうすると大役は勤めていない人という風習もあります。忙しいのは事実です。今塩澤さんがおっしゃっていただいた忙しいお母さんの代わりにしていただいているということは、本当にありがたく思います。

私たちの周りでは、まだそこまで地域の方と関わっていないかなあと感じています。資源回収もそうですし、まわっていただくのは地域の方にもやっていただくのですが、月に何回かある「旗当番」と言うのですけれど、それは地域の方をお願いするということはPTAの発想の中にはなかったと思います。また地域に持って帰って参考にしたいことだと感じました。塩澤さんのところは、それはお願いしていいという形なんですよ。

### 【塩澤委員】

たぶんそれは大丈夫だと思います。

### 【南沢委員】

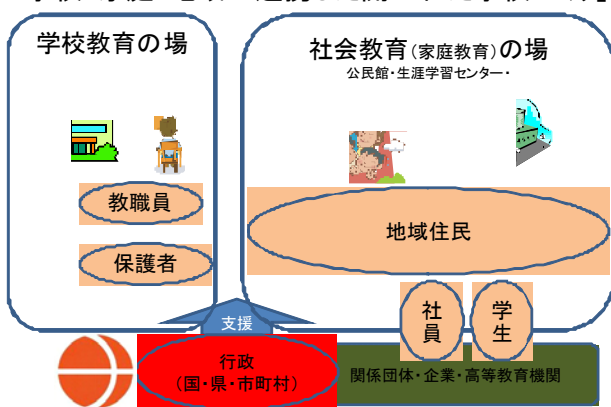
私たちのところにはなかったのでありがたいと思います。

### 【谷塚議長】

今地域の中で、子ども達に関わって活動の話が出されました。3名の方の話の中にもありましたが、教育は大きく分けて、学校教育と社会教育の場という形になっています。

[H23意見交換]

#### 「学校・家庭・地域が連携した開かれた学校づくり」



場所や関係する人を図にするとこうなります。ただ、学校教育だから教職員だとか保護者、社会教育だから地域住民というわけではなく。この両者はくっついていなければならない話です。保護者でしたら、学校教育だけでなく地域に入っていますし、今の話でいけば地域住民も学校に入ってきている。教職員も地域に関わってきている。こういうかたちで、相互乗り入れしていく形が本来の姿なのかと思います。そ

れを下支えしていくのが行政であったり関係団体であったり、という形になるのかと聞いていました。今は地域での具体的な姿でしたが、もう一つ大事なのは鈴木委員もやられるように自然を中心として体験活動も必要と思います。社会教育の場も学校教育を含んだというような、飲み込む、一体化する、それぞれの良さを生かしつつ連携するのがいいのかと思います。よく学社融合とか言いますが、融合してはいけないという学者もいます。それぞれ別のものなんだから、尊重しあって連携すればいいのであって、良いところは良いという形が大切である。ただ押しつけあうのではなくて、お互い尊重しつつ、連携していけばいいという考えもあます。今聞いていても連携の話になってきますが、逆に自然体験も社会教育の場で作っている鈴木委員さんからお話をお聞きしようと思います。

### 【鈴木委員】

社会教育、生涯学習で言うと、子ども達とお年寄りの活動が多い気がします。その真ん中の私たちの世代、私は子どもが3人いるのですが、その親の世代がいないように思います。今忙しい忙しいとありましたけれど、本当にそんなに忙しいのでしょうか。時間的には忙しいかもしれない。でも、私たち親の世代は、体も一杯動きます。親の皆さんによく聞くと、活動に行く子ども達の送迎があると言うことは聞きますが、実際の子どもの活動の中に入ってやっついて忙しいという話はなかなか聞こえてきません。

僕がやっている活動は入れないわけではありませんが、お年寄りはいません。できるかぎり私たちの世代、親の世代で、僕たちで息子達の世代を育てなくてはいけないと思っています。なぜかという、ただ忙しい忙しいと言って、確かに忙しいかもしれないけれど、それは追われている忙しさで、自分が何かをやりたくての忙しさではないと思います。そこで私たちの世代が、生きがいややりがいを持って生活をして、そうした姿を子ども達に見せることが一番大事だと思います。子育てを終えられた方が余裕がありますよね。私たちもそんな皆さんから学びたいのですけれど、私たちを通り越して子ども達にいつてしまっている気がします。現役の子ども達を育てている人たちにもっともって教えてもらわなければいけないことがいっぱいあるのではないかと。それを飛び越えて子ども達にいつてしまっている感じがします。私たちの活動は、現役の、今子ども達を育てている人達が生きがいを見つけて楽しんでいる姿を子ども達に見せる。それが今まで一番抜けている。お年寄りの皆さんはいろいろと苦労された時代があって、体も使われて、今のお年寄りは本当に元気です。私たちがその年齢になった時にそのようにできるのか不安でもあります。自信がないというところが正直なところです。車で何でも移動して、与えられるのが当たり前になっている。その姿を子ども達が見てしまう。私たちの世代が生き生きと夢や何か目標を持って子ども達を育てているんだよという姿を見せることが大切です。PTAだけではなく、地域の大人として、自分の子どもだけを見ている大人が多い。自分の子どもだけでなく周りの子ども達も一緒に見ていけるような、私たちの世代を作りたいと思っています。

僕が自然学校を作った理由がそれで、山の中にキャンプ場を作ってやっているんですが、完全に隔離された様などで生活をしているので、ゲームとか周りにやっている子がいないところで生活をしています。キャンプ場にキャンプに来た子ども達は、ほとんどが都会の子なんです。自然があって楽しくてしょうがないんですね。そこに我が家の子どもも加わります。環境的には最高なんです。

ところが、我が家の子ども達が少し大きくなって、下の村の公園に遊びに行くわけです。私もその公園に行きました。そこの子供達は何をやっているかという公園でゲームをやっているんです。それが現実です。放課後公園に行くとみんなやっているんです。何で公園でやっているかと言うと、家でやると怒られるんですよ。公園に来てやっていたら外で遊んでいると親は思っている。それでやっているんです。それを見てぞっとしたんです。うちの子どもにゲームを与えなかったらそれで済むのでしょうか。そんなことはないです。子どもは絶対ゲームをほしがります。周りの子がやっているわけですから、自分の子どもだけでなく周りの子の環境も変えていかなくてはいけない、そういう思いから自然学校をはじめました。公園に行くと子ども達がゲームをやっている横で、手を使わないで崖を駆け上って「おまえ達これできるか」と言っても誰もできなかったんです。子ども達は「すげえ」と言うことで始めたんです。私たちの世代が楽をして、「ああ行っといで」と言うだけではなく、一緒になって走り回れるのは私たちの世代が限界なのです。現実には年齢がいつてしまえばそうはできないわけです。「いつてらっしゃい」「おかえりなさい」「今日どうだった」と言える私たちの世代を皆さんに

作っていただきたい。そんな大人にみんなになってもらいたいと思っていますし、僕たちもやらなくてはいけないと思っています。

**【谷塚議長】**

ありがとうございます。それで今日のテーマの一番上に書いてある学校づくりに今の話がどう反映してくるのかそのあたりはどうですか。

**【鈴木委員】**

やはり実際には、学校にはPTAが入っています。学校には入って行けるんですが、やはりPTAという言い方がいいのか分かりませんが、ただ子どもの送り迎えとか、行事のためにやっているような気がします。地域の大人達が学校に入っていく時に、PTAが壁を作ってしまうことってあると思います。あれもしなくちゃいけない、これもしなくちゃいけない、自分たちで何とかしなくてはいけない。そうなるには学校にその雰囲気があるのです。もっともっと親ですとか、地域の人に言ってくれれば、そんなことくらいできるのにということがあります。学校支援とかサポートというのがあるのですが、ほとんど学校から要請がありません。学校は忙しいから逆に地域の人に来てもらうと面倒くさい、それを準備することの方が大変だと、お互いにかっこつけあっているようにも見えます。いったい目的は何なんだろうと思う時があります。PTAの人たちも、その役が回ってくるから、しょうがないから、仕事だからという雰囲気になってしまっている気がします。何のためにやるのか、本当の目的は、子ども達のためにやらなくてはいけないのではないのでしょうか。PTAの方も地域の方も学校も壁を取り払って、そのことにみんな向き合っていかななくてはいけないのではないかと思います。例えば、学校でいうと、放課後子ども教室では、学校の教室を使わせてもらえないんですね。学校の教室が使えないんです、空いているのに。「空きがないから使えません」と言うんですね。そこで私たちのところでは、公園の一室の管理棟を拠点としてやっているんです。学校はなぜ使わせてもらえないんだろうというのと、何とかという名目になってしまっているのとということで、別にそんなことはいいと思うのですが、使わせてもらえない。まずその時点で入っていけなくなっています。放課後子ども教室では、地域や社会教育の部屋みたいなものを作ってもらって地域の人はいつでもそこに行けるようなものは、少なくともうちの学校にはない。そういうサロンみたいなものがあるとそこに行き来しているだけでつながりができてくる。子どものためにみんなが壁を取り除く、そんな考えが大切に思います。

**【谷塚議長】**

今、場所づくりとかコーディネーターという言葉も出てきました。小笠原委員さん、長野市でそういう場所を作っている立場で何かありませんか。

**【小笠原委員】**

私のところは長野市全域で活動しているので、直接どこの学校とというのはありませんが、学校の子も達のボランティア活動の受け入れをしています。一番初めに始めたのは「サマーチャレンジボランティア」という長野市社協で行っている事業です。開設以来、子ども達を受け入れています。最初子ども達が来た時に「ボランティア活動に参加した目的は？」と聞くと、「高校入試の時にプラスになると思います。」という答えが返ってきて、ちょっとショックを受けました。最近はそうではなく、「体験したいから」と来られます。30何人の子ども達を4～5日くらい、8月いっぱい見ます。

事前講習として助産師の「命の誕生」という講座を受けてもらい、実際の活動に入ります。その時の子ども達の反応は、「私たちもこんなにお父さんお母さんから今か今かと待たれて、愛情をもらって産まれてきたんだと感動した」という話をよく聞きます。その後、広場の子ども達に接してもらっていきます。「サマーチャレンジボランティア」を行った後、「今度は個人としてやらせてください。」と言って来たり、中学校では体験活動として選んで来てくれることもあります。

また、食育講座としていろんな学校のいろいろな学年のお友達が来ます。その子ども達の感想が「学校も違う、知らないお友達と一緒に作ることがこんなに楽しいことだとは思わなかった」という、とても感動する言葉が返ってきます。そんな形でコーディネーター的なことをしています。交流事業では、長野市から運営を受託しているシニアアクティブルームとしての高齢者が後町小学校の音楽会に出演をする等、交流活動をしています。また、折り紙教室のお年寄りが後町小学校に教えに行き、後町小学校の子ども達がこども広場に来てくれる等、生涯学習で学んだことが地域の子も達に還元できる等、うまく循環ができていているという点ではよい例になっていると思っています。

#### 【谷塚議長】

今の話ですと、いい話ばかりだったのですが、こういうところで学校と連携するのに困ったとか、こういうところで工夫したということはありませんか。

#### 【小笠原委員】

私たちから積極的に学校に呼びかけているということは少ないので、あまり困ったことはないです。体験学習等では、先生方がうまくグループを作ってきて下さるので、学校との関係であまり困ったということはありません。

#### 【谷塚議長】

シニアアクティブルームでの後町小の子ども達との交流の話がありましたが、今日ご欠席の武田委員さんからのメッセージがありまして、武田委員さんは、伊那公民館の館長さんでもあります。昨年度文部科学省の公民館表彰を受けられた公民館でもあります。そこで地域コミュニティの拠点としての公民館と学校が協力して、お年寄りの知恵袋のような事業も、一つの方法として考えられるとしています。事務局の説明の中でもありましたが、夏休みに子ども達が公民館に来て、お年寄りと交流するという場を設け



ているというのがありました。つまり学校と公民館が互いに情報を交換して、開かれた学校づくりと地域の物的資源、人的資源の有効な活用を考えていくことが大切というのが武田委員さんのお考えです。伊那公民館では「夏休みおいで塾」というのをやっていて、その中ではおいで塾に子ども達が来る。またそれ以前に伊那おやじの会を実施して居場所づくりをしている、そうすることによって、社会全体として高齢者の生きがいづくり、居場所づくり、仲間づくり、健康づくり、絆づくりにつながっていくというお話がありました。ですから、学校あるいは公民館と場所で区切るのではなくて、子どもというものが必ず中心にいるような形で伊那公民館及びその地域の学校と連携して進めていきたいというのが武田委員さんのお話でした。

今公民館や学校の話が出てきたので、中島委員さん、今のような話でいかがでしょうか。

#### 【中島委員】

連携ということでは、コーディネーターやボランティアのみなさんが、学校に関わっていただく中で、学校の職員や学校の対応がそれに対してどうかということかと思いません。学校職員もそうですが、地域の皆さんと双方で子ども達のためにどうかということが必要になってくるのかなと思います。

外からこういう活動がありますよと文書が来た時に、学校で考えるのは、これは子ども達にどういふねらいで、どういふ力をつけさせたいんだろうかとまず考えます。発達段階もあります。それで受け入れる場合もありますし、この時間の中に入りませんので申し訳ありませんということもあります。また、職員から求めて、こういうふうなことで活動をやりたいのでお知恵を貸していただだけませんか、という活動も両方あります。それをお互いがやってもらわなければいけないかと思いません。学校にボランティアの方がお見えになって、読書にかかわってやりたいという話がありました。どういふねらいでやりたいのですかとお聞きして対応したことがありました。学校が求めているものを地域の皆さんがこういうことはどうでしょうかと学校の方に提案していただくことが大事なんだということの一つ思えます。そういう意味で、お互い支え合うことが大切だと思います。

もう一つ思うのは、地域の方と学校で関わっていくのですが、学校とすると子ども達が社会性や自主性を育ててもらいたいという思いがあります。子ども達にとってそれを補うのがコミュニケーション能力だと思います。お年寄りの方とのふれあいを通して、子

## 武田委員から

「学校・家庭・地域が連携した開かれた学校づくり」について

地域の資源には、自然・文化・歴史などと共に、風俗・風習・伝統・方言・地名・生き方等があり、それらを今に伝えることのできる高齢者がいる。

これらを今の子どもや若い世代に伝えることは、過疎化や都市化の波に流され、地域の特色を失いがちな現代社会の課題であると思われる。

そこで、地域コミュニティの拠点としての公民館と学校が協力して「お年寄りの知恵袋」のような事業を行うことが一つの方法として考えられる。

学校と公民館は互いに情報を交換し、開かれた学校づくりと地域の物的資源・人的資源の有効な活用を考えていくことができるようにしたい。

ども達がどういう風に対応したらよいか考え行動する。その中で子ども達は社会性や自主性を交流の中で培っていきます。

コミュニケーション力でもう一つ言えることは、保護者の皆さんも同じことが言えるかと思います。コミュニケーションで保護者同志の連携や横のつながりを高めて行くことが大事だと思います。例えば、同じ学年の皆さんが、子ども達の共通課題を持って子ども達や学校に対する考えをコミュニケーションを取ることで高め、解決に向かっていくことができるかと思います。それはまた、学校の職員に対しても同じだと思います。それが、学校・保護者・地域の皆さんと繋がっていくことかかと思ひます。ハード面で考えると同時にソフト面で繋げていくことが大事です。私は初めての保護者懇談会の時に、まず繋げるゲームをしながら保護者の皆さんに言いましたが、打ち解けあつて一つのまとまりとして、話し合つていくことが大切です。自然にそういう場を作つていく、そういうところが学校と地域の繋がりになつていくかと思ひます。

#### 【小出委員】

私の娘も学校の職員としてお世話になっていますが、帰りは遅いです。そこまでやらなくていいのではないかということまで学校が引き受けているのが現実かと思ひます。他の学校を見ても同じです。私は子ども達には栄養と運動量を確保して、そのことを頭に置いて、親も先生も地域もどういふ接し方をするのがいいかをか考えなくてはいけなかつと思ひます。

先ほどから出ている色々な実践はとても結構です。しかし、先生方の勤務実態やもう一つ親たちも非常に大きな要素、部分を占めていているかと思ひます。例えば今、下の孫が高校生になりました。すると、送り迎えした方が、親たちは睡眠時間が取れるということがあつる。歩いていくと1時間前に起きなくてはいけなかつ。子育てに対して親たちがどういふ風に考えなければいけなかつかということか、なにか全部外部とか学校に任せてしまふ状況があります。もう一つ考えなければいけなかつのは社会全体が、例えば、ゲーム、テレビとか携帯とかをどういふふうにか扱ふのか。学校に持つて来ちゃあ駄目とか言つていふだけでなく、携帯は健康に良くないかということかは分かつ切つたことかなので、そういふことを含めて学校を中心とした、システムをか考えていかなければいけなかつと思ひます。そういふことを考えていくのが本来の市町村の社会教育委員の役割かと思ひます。長野県の社会教育委員は590名います。本来ならば、そのよふな大きなことは社会委教育委員がその中に入つて、そうした問題はどのよふにしたらよいか、どういふふうにか人と人を繋げたらいいのか、そういふコーディネートをしながら、なおかつ、社会教育の振興計画を作ることまでやらなければ本当はいいかと思ひます。

勿論答申もやらなくてはいけません。私も答申を毎年やつています。今年か公民館の活性化についてやりました。武田会長さん非常に熱心にかやつていて非常にいいかと思ひます。しかし、公民館の現状を実際に考えてみますと今から5～6年前までは長野県にか公民館が1800あつたのです。公民館は全国一です。それが、1500をか切つるよふになつてきた。また、公民館の管理が指定管理者制度に移行されたり、公民館長が行政

と兼ねてやっている。そして、本当に、昔は公民館とは自分たちで公民館の人たちを選んで、やってきた。その公民館は福祉から始まって、我々の生活すべて、生活保護のことまでいろいろとやってきた。それを今、勿論求めるわけではないのですが、そういう状況になってきている。須坂では公民館の管理が首長部局の方に行ってしまったとお聞きしました。そういう状況になってきている時に、では長野県として、やはり公民館を含めて、社会教育をどうしたらよいかということを、本当は私はこの会議で色々教えていただいて、我々の活動に生かしていきたいなあという気持ちがあったのでさっき発言をさせていただきました。勿論、県の予算もありましようし、いろいろあると思いますが、そうしたことに教育長先生にも御配慮いただくなどして、今ここで話されたことが、それぞれの市町村で話されていくような方向を生み出していけるならば非常にありがたいと思っております。

**【谷塚議長】**

社会教育委員の役割のこと、あるいは、公民館の役割の話も出てきましたが、もうそろそろまとめの時間に入っていきたいと思いますが。今までのお話を聞いて何かありませんか。

**【小笠原委員】**

質問になりますが、全体の構想とか生涯学習講座とか見せてもらった時に、公民活動とか学校支援とか家庭教育とかお母さんの支援はあるのですが、若い働く世代、若い人たちへの支援というか、生涯学習的なものは教育委員会ではなくて、違う部署でおやりになっているのでしょうか。

**【事務局】**

子育て支援全般については、今、県の企画部の「ながの子ども・子育て応援県民会議」というところでトータル的に政策を検討しています。

**【小笠原委員】**

子育て支援だけではないのですが、若くて公民館活動に参加できない世代に対する支援策というものが講座として入っていないので、どこか違う部署でやるのかなあと思いました。

**【事務局】**

企画部で、教育委員会も入りワークライフバランス等、その会議に意見を持ち寄ってそれぞれの部署の施策に反映していくというような取り組みをしています。

**【小笠原委員】**

生涯を通してという視点で、ことを見た時に、どうかなと感じましたので質問しました。

#### 【鈴木委員】

私たちは、地域として学校に入っていこうと関わったりしているわけですが、学校側から見て、地域の力は必要としているのか、疑問に感じる人が多いのです。学校とするとどういふものが必要なのか。あるいは、こういうものは壁になっているとか、正直な話を学校から言っていただけない。地域の人は一生涯懸命お手伝いしたいという人がいるわけですが、そのあたりが共有できない。先生方にとって、本当に必要としているのかお聞きしたいなあと感じています。本当に学校と地域がいい関係にならないといけないと思うのです。

#### 【中島委員】

地域の方の力というのは必要です。なぜかと言いますと子ども達が生きていく場所というのは地域だと思います。学校教育を終えたとしても、受け皿としても、子ども達は地域の皆さんに見守られながら育ってきています。

今朝、非常にうれしかったことがありました。「低学年の子どもが朝、膝に手を当てて挨拶をしてくれました。とてもうれしかったので学校に伝えに来ました。」と保護者の方がお話しくださいました。「それを伝えてくださることが、また非常にうれしいです。担任からその子に伝えます。」とお話をしたのですが、伝えてくれることがありがたいのです。挨拶をしましょうと、学校では言っているのですが、地域の様子までは見えない。その地域で子ども達はこうやっているんだよという姿を教えていただける。学校教育ではありますけれど、地域で生きる教育でなければいけません。限られた時間、それから学習に基づいてということは基本になりますので、具体的に色々な場面で、地域の皆さんの力をすべてというわけにはいきませんが、それでも地域の皆さんに支えていただいて、子ども達が地域で育つということを尊重していきたい。それが基本だと思います。

#### 【谷塚議長】

このことについては、教育長にもお尋ねしたいと思います。私も普段教員養成に携わっていると、教員になるにあたって、学校と地域と連携していくという場が本当はないのです。それを知らないまま教員になっていく。送り出していいのかという不安が私もありますので、社会教育施設等、あるいは青少年施設に学生を送り出して連携している場を見ることをおこなっています。また、西部中学などでは、放課後の補助では信大生、清泉生など長野市内で教師を目指す学生が入っています。これは大事なことかと思っております。

#### 【山口教育長】

色々な方からもお話を聞いていますが、学校の立場で申し上げますと、今学校が抱えている様々な課題についてそれを解決する上で、学校は本分に切り替えていかないと前に

進めない時代に入っていると感じています。家庭はどうかと言えば、家庭も同じです。地域も基本的には同じだと思っています。だから例えば学校の立場で言いますと、学校が今こういうことで一番困難を抱えている、このことで家庭の方にこういうことをやってほしいんだ、地域の方で力のある方には是非この辺でお手伝いいただきたいということを言える勇氣。私は子どもというのは、世界の中で育つと思っています。子どもは決して24時間学校だけにいるわけではありませんし、家庭だけにいるわけでもありません、地域だけでもありません。トータルとして子どもを見た時お互いにこういうところで困っている、では、これは私どもでやりましょうとか、私はこれはできます、これはちょっと勘弁してくださいという、そういう会話というものが学校を軸にして、学校・地域、今では企業つまり親の勤め先も入ってもらわないと前に進まないのではないかという思いを持っております。その辺の率直さをお互いが持てるかどうか。この辺が一つの大きなポイントだと思っています。

#### 【小出委員】

皆さんがオープンに、しっかりと遠慮しないで、子ども達に一番何と何が大切かを持っていろいろやっていかななくてはいけないと思っています。

今、「新しい公共」という言葉が出てきました。簡単に言うと地域の人たちが問題を見つけて、解決方法を考えて、自分たちから地域を作っていく。そういう気持ちを持って活動していくことが新しい公共だということです。その場合に問題になるのは、社会教育、生涯学習という言葉です。その区別をしっかり持つ必要があります。私たちの周りでも地域社会に入っていない、自治組合に入らない人たちが三分の一くらいいます。これは、社会人として一つの教養だけは社会教育でつけてもらわないといけないということを、考えていかななくてはいけないと思います。

#### 【谷塚議長】

事務局で作っていただいた図で、この学校・地域・家庭の三角形の中の「信頼」というのが大きなキーワードになっていると思います。それにあたっては、お互いに、学校、地域、家庭、それぞれに連携していくのですが、それぞれの立場、役割を尊重していかなくてはいけないと感じます。子どもの成長をどうすればいいのか、子どもが成長する中で、この連携をどう進めるのかという話が今回の主な話でしたが、子どもの成長のためにこういうことをすればいいというのは、学校が責任を持つところかと思っています。小出委員からありました社会教育と生涯学習の違いというと、生涯学習の学習は自分でするものですが、社会教育、学校教育の教育は目的があるものです。この目標に関しては、学校である程度示していただく必要があるのではないかと。乱暴な言い方になるのですが、私はこういう主義を持っているから子どもに見せたいとか、教えたいということ、勿論、重要な生涯学習の意欲を持つものにはなりますが、そうではなくて、子どもが成長するためには、地域が成長する、高齢者が成長するということが大切かと思っています。更には鈴木委員の話にありましたように、親が成長する、こういうようなことを考えていくた

めに、お互いが信頼しあって、尊重しあってしていくことが必要なのではないかと思います。そして、実際にそうした場を作っていくには、素材、例えば地域の自然ですとか、あるいは伝統という素材を生かして、それを提供する場が公民館であったり、自然体験施設であったり、その場を通してということになります。そして、ここに関わっていくのが、小出委員の話にもありました社会教育委員がもうちょっと活躍すべきであるかと思えます。コーディネーターとして、社会委教育委員が活躍していくことや社会教育委員あるいは公民館主事がお互いの信頼を繋げるようなコーディネーター役になるのではないだろうと思って皆さんのお話を聞いておりました。信頼して協力するという中で学校づくり、子どもを中心とした連携というものが、長野県でも是非一層進めていければと思いました。

そして、来年のこの会議では、意見交換のテーマはまだ決まっておきませんが、子どもが中核となってきますので、実際子どもがどういう活動をしているのか、あるいはその子どもの活動を支えるにあたって、地域として、あるいは社会教育委員としてどういう活動をしてきたかという報告をしていただく会議になればいいと思います。社会教育委員の役割として、調査研究をするというのがあります。費用が出るわけではありませんが、委員の皆様、子どもを核にした社会教育という視点を持って活動していただいて、来年この場でご報告、ご意見、ご討論いただければと思います。

## 7 その他

### 【事務局】

2点お願いします。今年度の関東甲信越静社会教育研究大会は当初の予定では茨城県水戸市におきまして8月25日・26日に行われる予定でしたが、この度の東日本大震災により、会場が大きな被害を受けたので、11月頃、つくば市で開催することになりました。期日は1日で全体会のみで分科会は行わない見込みです。委員さんの中から、毎年お一人派遣をしているので選出をお願いします。

2点目は、この会の委員の中から、お一人に長野県社会教育委員連絡協議会の理事になっていただいています。選出をお願いします。

### 【谷塚議長】

1点目の、関東甲信越静社会教育研究大会の派遣につきましては、日程が決まっておきませんので、事務局に一任したいと思いますですが、よろしいでしょうか。

また、全国社会教育研究大会については、今年京都市で9月21日22日に行われます。県の社会教育委員としての派遣はありませんが、もし参加できるようであれば、ご参加いただければと思います。

2点目の、長野県社会教育連絡協議会の理事ですが、今日は武田委員さんも欠席ですので、事務局に一任したいと思いますですが、よろしいでしょうか。

以上をもちまして本日の議事については終了いたします。委員の皆様にはご協力、積極的なご発言をいただき本年度の会議を終えることができました。

また、来年この場で集まって、意見交換できればと思いますので、それぞれの活動の中で色々と調査研究を進めていただければと思います。